

みなさん、おはようございます。

令和6年度、最後の式典になります。

数週間前、春を感じさせる非常に暖かい日があったかと思えば、本日のように寒い日があり、服装を選ぶのに迷うような気候となっております。そのような中でも、少しずつ春は近づいてきています。

先日の西高EXPOは、冷たい雨が降り、寒さも残る中ではありましたが、保護者や卒業生、地域の方など来場された多くの方々に西高生の活躍している姿を見ていただきました。発表を行った皆さん、来場してくれた皆さん、ありがとうございました。

昨日は高校入試中期選抜の合格発表がありました。金曜日には合格者が登校し、春休み中に部活動に参加する新入生もいます。この春休みを有意義に計画的に過ごし、約3週間後、令和7年度のスタートを万全の態勢で迎えましょう。

2月28日には卒業式が、全日制と通信制合同で挙行されました。通信制の卒業生には77歳と高齢の方、10年以上かけて卒業された方、子育てや家事、仕事と学業の両立を果たした方などいろいろおられました。どの方も卒業の日を晴れやかな表情で迎えておられたのが印象的でした。全日制の卒業生、皆さんの先輩方も堂々と厳粛な態度で出席されました。卒業生代表による答辞では、代表生徒が次のように述べられました。

「振り返ると、私たちの日々は、特別な出来事だけでなく、何気ない瞬間の積み重ねだったことに気が付きます。そうした日常の一つ一つが、今ではかけがえのない思い出となり、これからの心の支えとなるでしょう。」と。そして、「在校生の皆さん、当たり前の毎日が、いつかかけがえのない思い出になります。仲間と共に一日一日を大切に積み重ねてください。」と結ばれました。

その他にも、御家族や友人、お世話になった先生への感謝の気持ちが綴られ、最後には卒業生全員による合唱があり、感動的な素晴らしい答辞でした。

さて、1・2年生の皆さんにとって、この令和6年度はどのような一年だったでしょうか。学習や部活動、自分の趣味、ボランティアなどに主体的に、意欲的に取り組みましたか。これまで、様々な場面で伝えてきましたが、「失敗のない人生は、新しいことに挑戦していない人生」です。大切なのは、さまざまなことに挑戦し、失敗を経験しながら自分を成長させることです。来年度からではなく、今日から新たな挑戦を積み重ねてほしいと思います。自分の進路を考えると、部活動の目標を立てるとき、家庭での役割を見つめるとき、簡単に達成できるものではなく、より高みを目指しましょう。イタリアの芸術家ミケランジェロは、「私たちにとって最大の危険は、高い目標を目指して失敗することではなく、低い目標を目指して簡単に達成してしまうことである。」と言っています。皆さんも、挑戦と呼べるものに向き合ってください。特に希望する進路を考える際には、安易に苦手な教科から逃げるのではなく、先生や友人、先輩の意見を取り入れながら学習方法を見直し、克服に努めましょう。

また、皆さんには広く学ぶことを期待しています。教科の学びだけでなく、さまざまな経験を積んでほしいと願っています。今は「希望進路を実現するため」「高校を卒業するため」に学んでいると感じているかもしれませんが、しかし、学んだ知識や考え方、経験が、いつ、どこで役に立つかは分かりません。一見、無駄に思えることが、思いがけない形で自分を助けることもあります。それは、希望進路の実現や資格取得につながるかもしれませんし、将来、仕事でのトラブルを解決する力となるかもしれません。また、新たな価値観を生み出すきっかけになることもあるでしょう。高校生である皆さんは、無限の可能性を秘めています。まだ気づいていない力もあるはずで、自分の可能性を自ら奪うことのないよう、一歩ずつ前へ進んでいきましょう。

この春休みの過ごし方で、新年度のスタートがどのようなものになるかが変わります。この後、担任の先生から、春休みの過ごし方などについて話があると思いますが、西高生の皆さんが新たな決意を行動に移せることを願い、学年末の式辞とします。

令和7年3月19日 京都府立西舞鶴高等学校
校長 田邊仁司